

令和元年度第2回  
北海道スポーツ審議会

会 議 録

日時：令和元(2019)年11月19日(火) 10時00分開会

場所：かでの2・7 10階1010会議室

## 1. 開 会

○事務局（石丸スポーツ振興課長）

定刻となりましたので、令和元年度第2回北海道スポーツ推進審議会を開催します。

本日の進行を努めさせていただきます北海道環境生活部スポーツ局スポーツ振興課の石丸と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

開会に当たりまして、北海道環境生活部 築地原部長より御挨拶申し上げます。

## 2. 挨 拶

○築地原環境生活部長

環境生活部長の築地原でございます。今年度第2回目の北海道スポーツ推進審議会ということで、お集まりをいただきまして本当にありがとうございます。今回は委員の改選後最初の審議会ということでございまして、6名の新たな委員に御就任をいただいております。これからお付き合いいただくということで、どうぞよろしくお願いいたします。

最近のスポーツの話題と申しますと、何と申しましても11月1日にI O Cの調整委員会の方で決定をされました東京オリンピックのマラソン・競歩競技が札幌で開催されるということが、最近では一番大きな話題になっているところでございます。昨日も2回目の組織委員会と実務者会議が開かれまして、大通りの発着ということで、ほぼ、意見が一致をしたというところでございまして、今後はコース設定、それに伴う様々な課題解決に向けて取り組みを進めていく、あともう8ヶ月程度しか時間がない中での作業ということで、これから急ピッチに進めていかなければならないというところでございます。こうした内容につきましては今日、後程ですね、事務局からこれまでの状況等について、御説明をさせていただくことになってございます。

そのほか、ラグビーのワールドカップも終わりました、ラグビーロス状態になっているところかもしれません。日本が決勝トーナメントに進むということでとてもワクワクするような、胸が踊るような経験を、皆さんも、多分国民の皆さんもされたんだと思います。私もわかファンということで、何試合か観ておりましたが、大分用語も覚えたというところでございます。私はそもそも昔はサッカーとかやっておりましたが、ラグビーのすばらしさというのは、そのワンチームに代表されますように、全員でゴールを取りに行くというところですね。誰かの個人プレーで点を取るということよりもチーム一丸となって取りに行くというのは、まさにこれは日本人の気質にマッチしているのではないかと申して、結構試合を見ておりました。そういったことで日本の中にも、若者子供たちがラグビーをやり始めたといった現象も出ていますので、そういった意味では日本のラグビーの裾野を広げる上では非常に大きな力になったのかなと思います。

このほか、つい先日までドバイで世界パラ陸上競技選手権が行われました。この中でも日本人が大活躍をするといったことで来年の東京パラリンピックの内定選手が13名決ま

るといような状況でございます、非常に今、スポーツ界で話題の多い時期になっています。

さらに来年の2月には、スペシャルオリンピックス日本の冬季ナショナルゲームが北海道で開かれます。これも我々も今一生懸命PRをさせていただいているところでございますけれども、こうした、健常者のスポーツだけではなく、障がい者の方々も含めて、みんながスポーツに取り組んでいくということが、これからの社会の中で、健康年齢を上げるということもそうですが、生活の中でスポーツを行うという活動的な部分を取り入れていくことによって、コミュニケーションですとか、地域の繋がりといったものができてくるのかなと思っているところでございます。

今日は第2期北海道スポーツ推進計画の御報告をさせていただきます。皆様、専門の立場からいろいろ忌憚のない御意見を頂戴したいと思いますけれども、今のこうしたスポーツを取り巻く状況をしっかりと取り込みながら、計画を進めていきたいと思っておりますので、そういった面からもまた、今日お集まりの委員の皆様には審議会の場だけではなく、いろいろな場面で御意見を頂戴したいと思いますので、どうかよろしく願いいたします。

簡単ではございますけれども、開催にあたっての御挨拶とさせていただきます。今日はどうぞよろしく願いいたします。

#### ○事務局（石丸課長）

それでは、ただいまの築地原部長からの挨拶にもありましたとおり、今回委員の改選が行われまして、6名の方が新規に審議会に御参加いただいておりますので、まず初めに配席の順に各委員の皆様から、自己紹介など一言ずつ御発言をお願いしたいと考えております。一番最初で恐縮ですが、北海道サッカー協会の安藝様からお願いいたします。

#### ○安藝委員

皆様はじめまして。私、北海道サッカー協会の安藝瑞穂と申します。サッカー協会では、事務総長という職を務めておりまして、この事務総長というのは2016年に日本サッカー協会が全国の9地域協会に配置した職となっております。主な役割としては、サッカーに関わる普及・強化・育成の事業の推進ですとか、マーケティング活動ですとか、事務局の管理運営など、こういうことを日頃やっております。4月に就任したばかりで、まだまだ勉強中の身ではございますが、今回、このような機会をいただきましたことを大変ありがたく思っております。微力ではございますがお力になりたいと思っております。

競技歴、スポーツ競技歴に関しましてはサッカーは、実は競技歴がなくて、学生の頃はバレーボールを中学と短大でやっておりました。学校を卒業してそれっきりになっているのですが、来年私の甥が小学校に上がって、バレーボールのクラブに所属するということで、また一緒に活動を始めていきたいと考えております。よろしく願いいたします。

#### ○生島委員

皆さんおはようございます。新任の生島と申します。今回、肩書きの欄は北海道スポーツ協会副会長ということでございます。と同時に札幌市体育協会の会長もやっております。それと競技団体の関係では、今安藝さんがバレーボールと言ってちょっと驚いたのですが、実は私、北海道バレーボール協会の会長と札幌の協会の会長もやっております。ただ競技歴がありません、雇われ会長であります。

個人的なスポーツですが、マラソンをやっている、もう 30 数年やってはおりますが、いわゆる市民ランナーでございます。何歳まで北海道マラソンを完走できるかというのが当面の目標ということであります。どうぞよろしく願いいたします。

#### ○老田委員

おはようございます。新任で任命いただきました老田よし枝と申します。ちょっと私、異色ですが、15 年間ニューヨークに住んでおりまして、2014 年に帰国いたしました。5 年前ですね。

そのときにアスリートフードマイスターという資格を取得しまして、現在プロですとか、オリンピックに出場したいレベルの選手の食の指導ができる一番上のレベルですが、それを取得しまして、現在、その資格取得者は北海道に 2 名しかおりません。主に私は講座ですとか、講演ですとかそういうことを中心に、食のサポートをしています。

それと同時に、日本ハムファイターズの近藤健介さんが取り入れていることで有名ですが、メンタルビジョントレーニングといいまして、メンタル面と目ですね、要はスポーツ選手に対して、動体視力ですとか、そういうことを指導できるインストラクターの資格を取りました。これは活動しているのが北海道で実質私 1 人になります。

食のサポートと、目ですとか、メンタルですとか、そういう意味で筋力とか体力以前の基本的なところからサポートできるという意味で、昨年フェニックスサポートという会社を起業いたしました。私は特にスポーツを中心にしていない生活ではないのですが、縁の下の力持ち的な感じで、北海道のスポーツをする皆さんをサポートできたらという思いで会社を立ち上げて活動しています。それと同時に息子もいま野球をやっているのですが、なかなかこの雪の北海道で練習場所を確保できないということで、昨年起業と同時に石狩市に室内練習場をオープンしまして、そちらの経営も一緒にやっております。そんなことで野球繋がりがかなり多くなってきて、最近ちょっとマスコミで取り上げられ始めていますが、北海道ベースボールリーグという独立リーグが間もなく 4 月から誕生します。そのプロジェクトメンバーとして私も参加させていただいてまして、今、4 月に向けて活動を始めているのが富良野市と美唄市の二つのチームになります。もうどんどんチームが増えているのですが、2021 年度から増えるチームのひとつとしまして、札幌市のと成りの石狩市にもチームが誕生します。そちらの球団代表にも決まっております。というわけでいろいろな意味でバタバタと忙しいのですが、今回この委員に選んでいただいたというこ

とで、まだ知識不足、それから微力ではありますが、2年間よろしく願いいたします。

#### ○尾形委員

おはようございます。私、2期目に入りますが、北海道スキー連盟で競技本部長を仰せつかっております尾形と申します。1回目の時にもお話をさせていただきましたが、先シーズン3年ぶりに札幌国体で優勝すると。スキー連盟として総合優勝できたことは本当に感謝をしております。また、育成や競技も、ジャンプ関係はもうウィンターシーズンが本当に始まっていますが、これから本格的に雪が降って、アルペン、スノーボード、クロスカントリーとかいろいろな事業が各地で行われますので、今後北海道スキー連盟としても、今年は富山国体ですが、何とか2年連続で総合優勝目指していきたいと頑張っている次第でございます。

自分自身は、スノーボードとフリースタイルを専門に担当しておりまして、全日本でも技術委員長をやったり、強化委員長等をやったりしておりました。今から40年ぐらい前の話になりますが、スノーボードが日本に入ってきた頃にたまたま目にして自分が取っ掛かりで始めて、その頃は競技人口は全然少なかったのですが、その頃からスノーボードを始めまして、全日本選手権だとかそのような大会に出ていたのですが、成績としては、そんなに芳しくなかったかなという感じはしております。いずれにしても、ニュースポーツはいろいろな側面でも話題になり、本当に皆様には御迷惑をおかけしている部分も多々あるかと思いますが、育成、指導、いわゆるアスリートとしての教育もしているつもりではいるのですが、なかなか今は、お子さんだけでなく親にも伝わっていないという部分も感じながらやっている次第でございます。今後、北海道のウィンタースポーツがもっとももっと強くなるように頑張っていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

#### ○笠師委員

おはようございます。北海道医療大学の笠師と申します。どうぞよろしくお願いいたします。私は大学に教員としておりますけれども、所属が、先ほど生島副会長からも御紹介ございましたが北海道スポーツ協会のスポーツ科学委員ということで、国体の帯同など選手一般の方のサポートをさせていただいております。それから役員としてですけれども、競技団体の方は、日本自転車競技連盟、日本バイアスロン連盟、それから障がい者スポーツでございますけれども、日本パラアイスホッケー協会でも選手のサポート等させていただいております。私事ですけれども、先ほど部長さんからマラソン・競歩の会場の話がございましたが、来年4月からは兼職ではございますけれども、東京オリパラの組織委員会に所属いたしまして、選手村とそれから競技会場の薬事関係の総括をさせていただく予定でございます。したがって札幌それから北海道ともども、また会場の件でお世話になるかと思いますが、ポスト2020に繋がるように、北海道のスポーツのサポートをしたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○黒田委員

はい。皆さんおはようございます。公募委員で黒田伸と申します。1982年に東京でスポーツ紙を6社がやっています、その縁があって、今の北海道新聞の道新スポーツの立ち上げにかかりました。その後もスポーツ紙、それからスポーツ関係の取材はメインでやっておりますが、北海道新聞を2011年に退社しましてフリーのジャーナリストということで、今は北海道教育大学の非常勤講師で、教えているものは、スポーツジャーナリズム論でございます。あとテレビのコメンテーターとか、FM放送のパーソナリティもやっていますが、一貫してスポーツは仕事でもあり、自分でもやるので、ずっと好きでやっております。学生時代はテニスをしていましたが、その後は私も長距離、生島さんのところともいろいろ御縁があって、北海道マラソンのNPO法人を立ち上げたりしております。それから今はメルボルンマラソンの事務局もやっています。

北海道でオリンピックのマラソン競技がまさか、まさか開かれるとは思ってもいなかったのですが私は非常に感激して、興奮しております。本もいろいろ書いているのですが、1964年の東京オリンピックと、札幌をつなげる意図がいくつかございまして、それでいま著書を作っているところでございます。来年また御紹介できたらと思っています。今回いろんなメンバーの方がいらっしゃるようで大変楽しみにしております。よろしく願いいたします。

#### ○小林委員

札幌市スポーツ推進委員会の理事をしております。先日帰ってきたのですが、スポーツ推進委員会の全国研修が三重でありまして、13、14、15と2泊3日で行ってまいりましたが、その際、東京オリンピックのマラソンが札幌に来るということで、各地方の方から札幌大丈夫ですかということをお聞きしたけれど、全然大丈夫ですと、札幌何もないわけじゃなくて、いろいろなところを見て欲しい、いろいろなところを探して欲しい。私たちも発信していきますので、どうぞ札幌のみんなを応援してください。私たちも全力でマラソン大会頑張っていきますので、というお話をし、わかりました、応援しますよと言われたことが、全国研修に行くと大変うれしく思いました。その前には、全国の研修会が札幌市で開催されまして、全国から600人あまりの人たちが参加してくれました。

私もスポーツ推進委員会で、24年目を迎えました。その前に10年ほど、道のスポーツ推進委員の女性委員長という立場で務めさせていただきまして、当初のころは、全国にも女性委員会がありましたので、そちらにも出向き、そういう活動をしてまいりましたが、全国の女性委員会がなくなり、北海道でも昨年度、女性委員会がなくなってしまいました。しかし、その間、北海道の各地域の方と話しをさせていただきまして、いろいろな現状を知ることができました。高齢化によって、スポーツをしたくても行くことができないといった悩みを聞くなど、そういう経験をもとにしながら、スポーツ推進委員はアスリートばか

りではなく、地域の中で、家で仕事ばかりしている方々に、体を動かすスポーツに携わっていただきたいという思いがありますので、地域のため、また、高齢者、障害を持っている方々様々おりますが、そういう方々にスポーツをしてもらって、スポーツの楽しさを自分で経験して、また伝えてもらう、そういう活動を今後もしていきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。

#### ○早川委員

都市教育長会から参っております。深川の教育長の早川でございます。よろしくお願申し上げます。深川のことを申し上げますと、ホクレンディスタンスチャレンジ、これを毎回させていただいて、陸上合宿の方の誘致ということで、一生懸命させていただいております。それに合わせまして、廃校になった中学校を合宿所にいたしまして、何とか冬のスポーツも、誘致したいというふうに考えております。ただいま、その合宿所の横に、選手の皆さんから雨天の時のトレーニングする場所がないと言われているものですから、トレーニング棟の建設を進めているということでございます。マラソンが北海道でというお話を聞いて、ディスタンスチャレンジはきっと日程も変わらないと思えますけれども、多くのお客様にも、札幌から1時間ですから、来ていただけるのかなと、何かお役に立てることがあればと、このように考えているところでございます。ちなみに、クラーク記念国際高等学校の野球部は、本校が深川でございまして、これも廃校となった中学校を合宿所に改修いただいて、甲子園と同じ大きさのグラウンドを作って、そこで選手が50人弱。佐々木監督のもとで、合宿、寮生活ですね、そういうのを送るということでございまして、スポーツ全般に今後とも力を入れていきたいと思っておりますので、皆様方にまたお力添えを賜りたいと考えております。以上です。

#### ○藤井委員

おはようございます。北海道中学校体育連盟で会長の藤井と申します。すいません。風邪をこじらせてしまいまして、失礼ながらマスクをしたままでお話をさせていただきます。北海道中体連ですがメインの活動は運動部活動、学校教育活動の一環である運動部活動の選手たちが目標としている最大の目標は全国大会ですけれども、全道大会の運営がメインの活動でございます。あわせて、運動部活動の充実に資するための研究活動と、運営と研究この2本柱を活動の中心として行っている組織でございます。私自身は学生時代バレーボールのセッターとして競技をさせていただくとともに、若いころはスキー連盟の指導員ということで、スキーの指導もさせていただきました。おかげさまで膝を使い切ってしまうと、昨年お医者さんに診てもらったら、あんた両方の膝の半月板の内側が全部なくなってるよということで、無理できない身体になってしまいました。

運動部活動、中体連を取り巻く環境ですけれども、様々な課題の中にあります。少子化に伴います複数校合同チームのあり方の問題、それから気候変動に伴います暑熱対策です

ね。昨年の夏の大会、北海道大会のソフトテニスでは北見で行われましたけれども、近くの女満別空港正面玄関入口の温度計の電光掲示が 38 度をさしておりました。そこで昼食をとり終えて、空港を出ましたら、その 38 度の電光掲示すら消えていまして、おそらく振り切ったのかなと思います。

北海道は競技会場としては、箱物として立派な会場がいくつかあるのですが、どうしても空調設備ですね、これは本州に比べてなかなか整備されていなくて、今年も卓球会場が富良野、それから剣道は暑い防具を着ながらですが、会場が伊達だったのですけれども、35～6 度ぐらいの室内でということで、WBGT（【注】暑さ指数：熱中症を予防することを目的として 1954 年にアメリカで提案された指標）の数値を見ながら、大会運営をしているということでございます。それから、働き方改革に伴う運動部活動のあり方、我々の事務局のあり方等々ですね、いろいろな課題のある中ではありますが、おかげさまで今年度、本連盟創設 60 周年を迎えさせていただきまして、今月末 29 日にはその式典をさせていただくところでございます。今後とも運動部活動に汗する子供たちのみならず、指導に携わるスタッフも充実した思いで活動できるように頑張りたいと思っているところでございます。どうぞよろしくお願いいたします。

#### ○星委員

北海道レクリエーション協会の星と申します。よろしくお願いいたします。2 期目になります。

レクリエーションって何やってるのということをよく聞かれてるんですけども、いろいろなことをやっていて、ちょっとつかみどころがないところもあるかなと思いますが、レクリエーションは「リ・クリエイト」で壊れたものを再生するというような意味合いで、いろいろなところで活動しております。最近では日本レクリエーション協会が文科省と提携しまして、教員の資格更新、10 年に 1 回ありますよね。その資格更新の講習会でレクリエーションの講習もやっています。北海道レクリエーション協会も去年からやっています、今年 2 回目をやりました。また来年も続けてやっていきますけれども、受講した先生方は非常にためになったということで、評価をいただいております。

個人ごとなのですが、僕は北見市に住んでいましたが、今年の 8 月に札幌に引っ越しをしてきました。北見市というと、カーリングが有名だと思いますが、カーリングの方もやっています、北海道カーリング協会、日本カーリング協会も含めて、指導普及の担当をさせてもらっています。北見では、僕がこちらの方に引っ越しすると同時に、新しいカーリングホールができるということで、非常によかったのですが、個人的には残念に思っています。札幌には、カーリング場が一つしかありませんので、練習しようと思ってもいつも混んでいて、抽選で当たらないと練習ができないという状況だというふうに聞いております。ぜひ、二つ目のカーリングホールができればいいなと望んでおります。よろしくお願いいたします。



#### ○増山委員

皆さんこんにちは。北翔大学生涯スポーツ学部の増山と申します。この学部は生涯スポーツ社会の実現を目指してその支援者を育成するというで作った学部なんですけれど、先日日曜日に推薦入試がありまして、受験生の中で、釧路から、自分が小学生のときに、体操の指導者がいなくて困ったことがあるので、自分が指導者になって、地元で子供達を教えたいという抱負を語っている生徒さんがいて、すごくうれしく、また期待をしたところです。

本学では、健康運動指導士を養成して、今、道内 17 市町で地域丸ごと元気アップという介護予防運動のプログラムを展開したり、また枝幸町で新しいスポーツ施設ができたときに、運動プログラムやトレーニングをタブレット型端末で受講資格を使えるようにしたりするようなシステムの開発などに教員がかかわったりとか、あと、学生などと一緒に江別市内の小学校で体力向上の事業をもう 10 年近く続けたりということで、少しでも、道内のスポーツ推進に関わるような人材を輩出したいと思ってやってきているところです。その中で、今年特にうれしかったのは、私のゼミの学生だったのですが、本前郁也という学生が、育成枠ではあるんですけどプロ野球と契約ができたということで、非常にうれしく思っています。本学野球部は、奨学金などの特待生をとってないので、まず甲子園に出場しているような生徒さんは入ってこないのですが、4 年間成長してそこまで行ったということで、なにより野球部の同級生の学生が、自分のことのように喜んでいて、すごく嬉しいなと思った次第です。

私の専門種目っていうのはダンスをやっています、一応専門が舞踊教育学ということで、特に学校でのダンス教育という研究もしているのですが、小学校において、ダンスが体育祭とかの行事の練習に振り替えられてしまって、本来の一人一人の表現を大事にするようなものが行われていないので、何とか退職までにもっと広まって欲しいと思って、いろいろ講習とかもやっているところです。今年の夏に講習会を一般の方向けにやったのですが、その方達と一緒に私は 15 年ぶりにステージに立ちまして、ダンスを踊って、すごく楽しかったのも、今年の私の一つのトピックでした。以上です。よろしくお願ひします。

#### ○山崎（佳）委員

こんにちは。道東の標津町教育委員会からであります山崎と申します。町内での取り組みを少し紹介させていただきますと、中学校ではアスリート save ジャパンの取り組みとして、道内で初めて著名なアスリートを呼んでスポーツの振興、それと A E D の普及ですね、これを合わせて行う取り組みを 3 年前からさせていただいております。また小学校では夢の教室として、本町出身のオリンピックを呼んで、夢を持つ大切さを学ぶ機会を設けることを 2 年前から行っているところでございます。ちょっと私事になりますけれども、

先ほどの部長の御挨拶にもありましたラグビーワールドカップ、流行語にもノミネートされるような大変な活気といいますか、国内に非常に熱いものを残したというところでありますけれども、自分自身も高校の時ですね。体育の授業でラグビーがございまして、その時の良くないイメージが払拭されました。非常に痛い汚いスポーツというイメージがありましたけれども、今回本当に見て、チームとなって戦う姿というところに感銘を受けたところでございます。

また東京オリンピック・パラリンピックが一生に1度に控えておりまして、チケットの申し込みをしましたけれども、もちろん一つも当たらずというところで、さてどうしようかと思っているところに、この札幌でのマラソン・競歩の大会が行われるということで、ぜひ、沿道の片隅でもいいので、観にいつてみたいと思っているところでございます。2年前からこの会議に参加させていただいております。引き続きよろしく願いいたします。

#### ○山崎（文）委員

おはようございます。北海道婦人スポーツ連盟から参りました山崎と申します。よろしく願いいたします。私たちの団体は、テニス、ソフトテニス、卓球、そしてバドミントンという婦人の4種目が集まった団体です。婦人ということですから、バリバリのアスリートというよりは、元アスリートという感じの方が多いのですが、私を含めて、今ベテランの大会がすごい盛んなんです。

私はテニスをしているのですが、こないだも全日本に行かせていただきました。今、全日本は東京そして関西、九州というところが中心になっていますが、私は将来、札幌でもそういう大会をしていただきたいなとすごく思っています。夏のシーズンが多いので、暑さの関係で、本州では6月7月8月の大会をずらしていくということが非常に多いのです。いつか私は北海道がスポーツの中心になるのではないかと確信しています。

ちなみに私、千葉なんです。千葉から40年前にこちらに来ました。もともとはバスケットをしていましたが、冬になるとなかなか続ける場所がなくてスキーをしました。基礎スキーの指導員をとりまして、指導をしていてやっぱり北海道ってウインタースポーツなんだなと思いました。テニスを始めた頃には、冬はスキー、夏はテニスという切り換えをしていました。ところがですね、ここ数十年前から施設が非常に増えて、夏のスポーツを冬でも続けられるようになったというところは、すごく素晴らしいし、もうスポーツ王国になると私は確信していますけれども、そういう意味では、今回のオリンピックでマラソンが来るということも非常にうれしいことですし、婦人スポーツ連盟としては微力ながら、北海道マラソンありますよね、その給水とかのポイントのお手伝いをさせていただいています。私たちはちょっと年齢がいつていますので、陰の力となりますけれども、頑張っていきたいと思っておりますので、皆様よろしく願いいたします。

○事務局（石丸課長）

委員の皆様ありがとうございました。それでは続いて事務局の職員を御紹介いたします。

#### [事務局職員紹介]

○事務局（石丸課長）

それでは当審議会について御説明させていただきます。北海道スポーツ推進審議会につきましては、スポーツ基本法の第31条及び北海道スポーツ推進審議会条例に基づきまして、知事の諮問に応じ、スポーツの推進に関する重要事項を調査審議することを目的として、設置されております。また北海道情報公開条例第26条により、会議は公開となりますが、会議を公開することが適当でない場合は同条のただし書きによりまして会長が会議に諮りまして非公開とすることができます。

その会議録は、附属機関等の設置及び運営に関する基準に基づきまして、非公開部分を除き行政情報センターでの閲覧に供するほか道のホームページで公開することとなっておりますので御承知いただきたいと思っております。

本日は、13名の委員に御出席をいただいております、全員の2分の1以上の出席があることから、北海道スポーツ推進審議会条例第6条第2項により会議が成立していることを御報告いたします。

本来議事につきましては会長が進めることとなっておりますが、本日は会長が選出されるまでの間は、私が進行を務めさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

### 3. 議 事

○事務局

それでは議事に入りたいと思っております。参考資料にもついております審議会条例の第5条におきまして、会長及び副会長は委員が互選すると規定されておりますので、まず会長及び副会長の選任についてお諮りしたいと思います。御意見等ございますでしょうか。

○事務局

御意見がないようですので、事務局から案を提示させていただきたいと思っておりますがよろしいでしょうか。それでは事務局の方から説明させます。

○事務局

道庁スポーツ振興課の保坂と申します。よろしくお願いいたします。事務局の方からは、北海道スポーツ協会副会長の生島委員に会長を、また、副会長を北翔大学教授の増山委員にお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

(異議なし)

○事務局

はい。それでは事務局の案でよろしいでしょうか。ありがとうございます。  
それでは、生島委員に会長、増山委員に副会長をお願いしたいと思います。  
会長の生島委員から一言御挨拶をお願いします。

○生島会長

あらためましておはようございます。ただいま会長に選出をされました生島と申します。どうぞよろしく願いいたします。新任なのであまり雰囲気はよくわかっていないのかもしれませんがけれども、自己紹介の話を聞いておりましたも、非常に多くの経験、見識をお持ちの委員がたくさんいらっしゃるということがよくわかりました。皆さん方には、貴重なお時間をいただいているわけでございますので、活発な意見が出るように、そのような運営に努めたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○事務局（石丸課長）

ありがとうございます。続きまして、副会長の増山委員からお願いいたします。

○増山副会長

あらためましておはようございます。増山です。最初の御挨拶にもありましたけれど、非常に大きなイベントが続いてくるということで、成功裏に終わるように、また、レガシーということが言われますけれど、それが裾野に広がって、人々の生活にさらに潤いを与えるような形に発展していくことを、この審議会でも進めていけるように、微力ではありますが尽力させていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○事務局（石丸課長）

それでは、この後の進行につきましては、生島会長をお願いいたします。

なお、築地原部長におきましては、他の用務がございますので、ここで退席させていただきます。

○生島会長

はい、それでは議事を進めさせていただきたいと思っております。次第では報告事項が1件ということでございます。

進め方でございますけれども、事務局から御説明をいただいた後に、委員の皆さんからの質問をお受けしたいと思います。

それでは報告事項について事務局から説明をお願いします。

#### ○事務局

はい、それでは事務局から説明をさせていただきます。

資料の1-1、1-2、1-3。この資料をお手元に御用意ください。まず資料の1-1です。

一つ目の報告事項になりますが、令和元年度、第2期北海道スポーツ推進計画について御報告いたします。まず、第2期北海道スポーツ推進計画の概要について御説明いたします。資料1-1の概要を御覧ください。本計画はスポーツ行政を担当するスポーツ庁の創設や、スポーツ立国の実現を目指す第2期スポーツ基本計画の作成などといった国の動きや、今年盛り上がりを見せたラグビーワールドカップ2019や、2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会などの国際大会の開催決定が続くなど、国内におけるスポーツに対する関心がこれまでになく高まっていることを踏まえ、スポーツ王国北海道の実現を目指す姿として、平成30年3月に策定いたしました。第2期北海道スポーツ推進計画は、平成30年度から令和4年度までの5年間を計画期間とするもので、概要右上の基本方針にもありますとおり、北海道らしく、スポーツを「する」「みる」「ささえる」。スポーツの価値で、北海道に好循環（ひと、もの、げんき）を生み出す。スポーツで北海道と世界をむすぶ。東京2020オリパラの好機をつかみ、「その先の、道へ。」つなぐ。の四つを基本方針として定め、スポーツをするだけでなく、みる、ささえるなど、様々な形によるスポーツに参画する人の創出やスポーツを通じた交流人口の拡大、共生社会の実現などに取り組んでおります。

第2期計画では、この方針のもと、スポーツの推進を図るための今後の主な取り組みを5つの柱に分類し、さらにその5つの柱の下に、具体的な方策をいくつか分類して記載しております。

第2期北海道スポーツ推進計画の進捗状況につきましては、毎年度、北海道スポーツ推進審議会に報告し、その意見等を踏まえ、計画の効果的な推進に努めるということとしております。今回の報告事項はこの計画の柱ごとに、今年度の関連施策としたものであります。

資料1-2を御覧ください。資料1-2では、5つの柱ごとに、関連施策の一覧を記載しております。なお、資料にあります表の右側の欄に事業番号、その右隣にページ。これは、資料1-3の記載ページと番号になっております。また、一番右側には担当部を記載しておりますが、所管する部の略称を記載しております。資料3は関連施策の概要をまとめた資料になっております。資料3の1ページから6ページ、これにつきましては、スポーツ振興課が実施している事業。7ページ8ページにつきましては、総合政策部が実施している事業。9ページ10ページは、スポーツ振興課以外の環境生活部の2課が実施している事業。11、12ページがそれぞれ、保健福祉部と経済部の事業。13から15ページに教

育庁が実施している事業を記載しております。

それでは資料1-2に沿って御説明いたします。資料1-2では、計画の第3章として記載しました五つの柱とその下の小柱ごとに、令和元年度の関連施策を記載しております。また、計画の中で目標を設定している小柱については、参考として合わせて記載しております。初めに、1ページ目の柱1「スポーツで変わる北海道民」の下には、様々な世代のライフステージに応じたスポーツ活動の推進をはじめとする四つの小柱により、道民がスポーツに親しむ機会の拡充を図っております。

施策の一部を説明いたしますと、小柱1の施策を記載した表の上から2番目、北海道スポーツ表彰についてであります。本表彰はスポーツを行う方への名誉の付与や、道民のスポーツに対する関心の喚起などを目的に実施されるもので、前回の審議会において北海道スポーツ賞の推薦者について御審議いただき、去る10月10日に、振興寄与者5名、優秀成績者4名の贈呈式を実施したほか、同月北海道スポーツ奨励賞を1名に贈呈いたしました。また、同じく6月に審議いただいた文部科学大臣表彰について、生涯スポーツ功労者、生涯スポーツ優良団体として4名、5団体、スポーツ推進委員功労者として4名の表彰が決定されました。

このほか、審議会にお諮りしておりませんが、10月1日に、世界バドミントン選手権大会で2連覇を果たした北海道出身の永原松本ペアへ栄誉賞の贈呈を実施するなど、スポーツ指導者やアスリートの表彰を通じ、道内のスポーツ振興に取り組んでおります。

もう一つの事業は同じ表の上から3番目の地域づくり総合交付金です。この交付金は、市町村が地域活性化を目的に取り組む各種事業に支援しているものですが、屋内スポーツ施設の整備事業など、スポーツ振興事業が交付対象事業となっているものです。そのほかにも小柱2の表、上から3番目の学校スポーツ振興事業費では、学校スポーツ活動の普及促進を図るため、中体連などの全道大会開催費の補助を実施しております。

次に、2ページを御覧ください。柱2「スポーツで変える地域・経済・共生社会」についてですが、スポーツによる地域の活性化など三つの小柱により、スポーツを通じた地域の活性化や共生社会の構築を進めています。

主な施策といたしまして、小柱1の表の最後、経済部所管の事業になりますが、国内の他地域に比べ、本道が優位性を持つスキーや自転車など、スポーツを核とした外人観光客向けのスポーツツーリズムの振興を図るものとなっております。

また、小柱3、スポーツでつくる優しい共生社会にありますように、障がい者や高齢者のスポーツ振興などを目的とした施策を進めております。

次に3ページの柱3「『どさんこ選手』の国際競技力の向上」につきましては、関連施策のうち、新規事業及び予算を拡充した施策について御紹介いたします。

まず今年度拡充施策についてですが、小柱2、世界に羽ばたく次世代アスリートの発掘・育成の施策を記載した表の1番目の、スポーツ王国北海道事業費の中のジュニアスポーツアスリート強化育成事業となっております。本事業は、平成23年から、北海道の特

性になります冬季スポーツについて、中高生を中心としたジュニア選手層の育成強化を図るために実施されていますが、本年度から、本道の競技スポーツの全体的なレベルアップを図るため、夏季競技のバスケットボールや、バドミントン、サッカーなど7種の競技を対象に加え、さらなるジュニア選手の強化を実施しております。

次に、新規事業ですが、同じ小柱2の表の下の二つの事業となっております。全国中学校体育大会第40回全国中学校アイスホッケー大会及び第69回全国高等学校総合体育大会スケート競技アイスホッケー大会の開催に対する補助金を計上しております。なお、全国中学校アイスホッケー大会は苫小牧市で、全国高等学校のアイスホッケー大会は帯広市において開催予定となっております。

次に4ページ柱の4「スポーツを通じた人づくり」につきましては、スポーツを通じた礼儀や社会性の習得や、道内出身のアスリートやプロスポーツチームの応援を通じた郷土愛の醸成などに取り組んでおりますほか、小柱4、大学との連携によるスポーツ人材の養成では、包括連携協定を結んでおります北翔大学様との連携のもと、パラアスリート発掘プロジェクトを進めております。

最後に柱5「東京2020オリパラの開催、札幌冬季オリパラによる北海道レガシーの創出」については、表のはじめにあります東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会関連事業により、東京オリンピック・パラリンピックの聖火リレーの成功に向け、ランナーの募集などを行ったとともに、東京オリパラに向けた、道内の気運醸成を進めております。

#### ○生島会長

はい、ありがとうございました。ただいま第2期北海道スポーツ推進計画について御説明をいただきました。皆さんから御質問、御意見をお受けしたいと思っております。いかがでしょうか。非常に多岐にわたっておりますので、どのような観点からでも結構だと思います。

いかがですか。では星委員お願いします。

#### ○星委員

はい。柱3の「『どさんこ選手』の国際競技力の向上」の1、競技力向上に向けたアスリート強化、指導者の充実とありますが、特に指導者の充実の部分で、事業名で該当するのは、一番下の北海道未来人材応援事業なのかなと思って見ていたのですが、指導者の充実ということでの具体的な取り組みがありましたら教えていただければと思います。

#### ○生島会長

はい。いかがでしょうか。

○事務局

はい。今お話しのとおり、北海道未来人材応援事業という、総合政策部の事業がありまして、そちらの方でも取り組んでおりますが、当課といたしましても、指導者に指導方法を教える派遣事業を実施しております。これにつきましては毎年、市町村に呼びかけて、競技を問わず申し込んでいただいて、そこにオリンピック選手ですとか、指導に非常に長けた方を派遣して、指導者に集まっていたいただき指導している。そういう事業も加えて行っております。

○生島会長

鈴木主幹は、道内オリンピックの取りまとめをやってらっしゃっていて、オリンピックの活用という意味ではどうですか。

○事務局

はい。北海道は21名の金メダリストが出たということで、2位の大阪の13人をはるかに抜いて都道府県ではダントツの金メダリストがいる地域ですし、1972年以降でも450名を超えるオリンピック・パラリンピアンが存在するというこの北海道は、すごい土地なんですね。私の方で、今のオリンピック・パラリンピック選手のメーリングリスト、そして会員を登録して北海道オール・オリンピックズという会を作って、皆さんで活動しているのですが、当然北海道の事業、例えばチャレンジ教室にも、年間20回ぐらいの事業になりますけれども、北海道出身のオリンピックが地域に行き、直接子供たちに触れ合い、そして感動を与えるということをやっております。

その他、いろいろな道の事業にオリンピック・パラリンピアン、皆さん道内出身の方でするので、本当に北海道をどうにかしたいという気持ちをもって取り組んでいて、本当に皆さんからも御要望が多くて、調整するのが大変なぐらいになっております。

○生島会長

はい、ありがとうございました。今たまたま指導者の話が出ましたけれども、今回のこの委員の中には、競技団体の関係者もいらっしゃいます。

サッカーはどうですか、指導者の育成。それで北海道の事業として、こういうことやったらどうかみたいな話があれば。

○安藝委員

はい。北海道は技術委員会というものがございます。特に大きな施策としては、来年度から日本サッカー協会の補助金がつきまして、指導担当者の専任化というものを進めて参ります。その方は、技術関係の委員会の補佐もですが、指導者の養成ですとか、トレセンと云って育成に関わるすべての北海道のそういった活動を、専任として進めていくという



新しい取り組みを進めて行くことになっております。

やはり、すべてにおいて、一番重要なものが指導者ということで北海道協会は考えておまして、日本協会の施策ではございますが、その方針に従い、進めていく考えでおります。

○生島会長

はい、ありがとうございました。競技団体ということで尾形さんのところ、スキー関係ではどうですか、指導者の育成。

○尾形委員

スキー連盟では、種目が6種目ございまして、それぞれ各種目の中で、全日本スキー連盟から講師派遣ですとか、外部からの派遣講師などで指導者育成を図っております。

特別に先般行われましたスポーツ協会の育成の指導者、なかなか資格の部分で取れてない人達が多いものですから、どちらかというスキーの場合は自分たちが競技者として参加していた人達が、大人になってから指導者になるという、内部でお互いにディスカッションしているというのが現状ですね。

○生島会長

ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

はい、黒田さん、お願いします。

○黒田委員

全く別件でいいんですね。はい。柱の1の小柱の1の上から2番目の北海道スポーツ表彰に関してですが、私は前回の審議会のときにも発言したのですけれども、これ予算額が、桁一つ違うじゃないかというぐらい安いのです。これ30万円ですよ。それで、表彰される方というのは随分いらっしゃるわけで、メディアの出身者としてはこれが全く道民に伝わっていないのではないかというのは前から思っていたのです。

前回の表彰式に私出席させていただいたのですが、メディアの取材はゼロではなかったですか。ありましたか、ごめんなさい。

翌日の新聞、テレビ等にも全く出ていないという状況。これはやはり北海道の一番のスポーツ賞ということで、もっともっと力を入れるべきだと僕は思っています。お金の問題ではないにしても、例えばやり方を工夫すとか、例えば民間を引き入れてなにか商品を出すとか、そんな工夫もできると思うのです。そうした議論はなかったのでしょうか。

○生島会長

はい、いかがでしょうか。

○事務局

前はそうですね。

前々回のときに小林陵侑選手が受賞するということが、かなりメディアの関心も高かったのですが、黒田委員からの御指摘は事務局で持ち帰らせていただいて、メディアの活用など、検討していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○黒田委員

いや、いじめているわけじゃないですけど、せつかくの本当にいい賞なので、何か皆さんでお祝いできるようなパターンをつくれればいいのかなと。

これ、テレビとかもっと引き入れて、その受賞の場面を作って設定していけば、いろいろできるのではないかと思います。御検討お願いいたします。

○生島会長

はい、ありがとうございました。

黒田さんおっしゃったとおり、知ってもらうためにはやっぱりパブリシティっていうか、やっぱりマスコミを通じてというのが、一番効果的ですね。ですからまさしく黒田さんからアドバイスしていただいたように、どういうことをやればマスコミが、まあ言い方は悪いですけど、喰らいついてくるかというのをよく考えていただいて、マスコミにとって魅力的な演出が必要かなと聞いていて思いました。

はい。他いかがでしょうか。じゃ、笠師さんお願いします。

○笠師委員

柱の4の「スポーツを通じた人づくり」で、多分前回は御説明いただいたかと思うのですが4番目の大学との連携によるスポーツ人材の養成ということで、一番最初の包括連携協定のところが特に予算がついていないので、多分枠組みなのかと思うのですが、もし具体的な方策があればお聞きしたいと思います。

中学高校ぐらいまでは、選手が北海道にいて、トレーニング等々をして強化に走るんですが、なかなか大学までいくと、増山先生のところのように、特定の学科があるところはいいのですが、どうしても、本州に行ってしまうというところがありますので、何かそういったことで作り込みを御検討されていけば教えていただきたいのですが。

○事務局

はい。大学包括連携協定を結んでいる大学、多々ありまして、こちらからいろいろアクションを起こすのですが、大学とのニーズの違いとかもあって、なかなか実現には至っていないのですが、北海道の大学ではないですけど、立命館大学の本校の方で、北海道マ

ラソンという夏にやるマラソンを研究したいということで、昨年度からプロジェクトが動いてまして、一人一人のランナーにちょっとした機械をつけて研究してみたいということで、今進んでおります。具体的に立ち上がってきましたら、どのぐらい事業を展開しているか今後相談となりますけれども、今のところはそんな形です。

#### ○笠師委員

ありがとうございます。

手前味噌で恐縮ですが、私の大学も日本体育大学と提携を結んで、これから事業を始めるということなのですが、大学の縦割り状況で何かをやっているというのはいろいろなニュースで拝見するのですが、横の連携がなかなかないので、例えば競技団体の立場からいうと、どこの大学と提携を結ぶと競技力の強化になるのかなという情報があまり得られないものですから、そういったところを道の方で情報整理していただけて提供していただくと、競技団体としても強化に進めると思いますし、大学間での提携も可能かなと思いますので、ぜひ前向きに御検討いただければと思います。

#### ○事務局

はい。ありがとうございます。

私どもの方で、学科ですとか、そういうコースを持っている大学というのを押さえておりますので、私どもも一度そういうところに集まっていただいて、お話を聞いたり、情報交換の場を作るといったことを考えなければということでは思っていたのですが、NTCというナショナルトレーニングセンターというのがあって、東京にあるのですが、それを北海道に作るという構想と要望もしております、その中にぜひ大学とも連携する施設なんかも入れていったらどうかということで、計画も進めております。

御指摘ありましたように、その連携する部分につきましてはデータがございますので、こちらの方で整理して御提示したいと思います。よろしく申し上げます。

#### ○生島会長

はい、ありがとうございました。

はい、増山さんお願いします。

#### ○増山委員

包括連携とは違うのですが、大学の方で昨年度ユニバスという、大学の中体連高体連版のような、スポーツ連合というのが発足しまして、加盟は任意ですが、大学同士、それから競技団体含めて横の繋がりを強化していこうという動きは出ております。まだ組織化されるには至っていないところですが、そういうものも今後、使いながら道とも包括というところが広がったらいいなと期待しています。

○生島会長

はい。ありがとうございました。

私も先ほど笠師委員がおっしゃったように、高校までは道内でいろいろやるけれども、大学となるとみんな本州に行ってしまう。例えばホッケーなんかは典型的だと思うので。アイスホッケーで大学の強豪チームって今みんな東京ですよ。高校はもう北海道が圧倒的に強いわけですがけれども、強い大学があるかという、ないですよ。ほんとその辺はやっぱり難しいところというか、だから、東京に行くなどとはいかないわけです。

少なくともウィンタースポーツは北海道の大学が強いよねというのが自然な気もするけど、全くそうではないという難しいところがあると思います。これは単純な感想ですが、皆さんも共通に持ってらっしゃるのかなと思います。

鈴木さん、はい。

○事務局

はい。今の会長のお話の通り、道内では東海大学のスキー部があるだけでアイスホッケーの大学というのは1部は存在しませんし、スピードスケートも全くないということで全部、東京の方に行ってしまいます。

これは大学の経営というところにも絡むかもしれませんが、我々としてもいろいろな形で働きかけ語りかけて、北海道にウィンタースポーツの部を持っている大学を増やそうと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

○生島会長

はい。他いかがでしょうか。

時間の関係もありますので、本件についてももう御質問がないということであれば、この程度にさせていただきたいと思います。

それで先ほど、築地原部長さんから東京オリンピックのマラソン・競歩競技が札幌で開催されることについて、後程お話がある、御説明をするというお話がありました。資料も用意されているようでございます。引き続きまして事務局から経過等についてお話いただければと思います。

○事務局

はい。オリンピック・パラリンピック連携室から、資料番号を振っておりませんが、東京五輪マラソン・競歩競技の札幌開催決定の経緯についてということで、A4の縦書きの資料を一枚用意させていただきました。経緯についてざっと御説明させていただきます。これからどんな取り組みをするかということも、御報告させていただきたいと

思います。

まず10月16日、1か月ちょっと前ですけれども、I O Cの方から、暑さ対策として、マラソン・競歩競技会場の札幌市への移転を検討しているという発表がありました。この発表については我々も、メディアから初めて聞いたというような状況で、すぐ東京の組織委員会も含め、いろいろな方面に情報の確認をいたしましたけれども、なかなか情報が掴めないなか、I O Cのホームページにはもう載っているということで、早速それを翻訳いたしましたところ、きちんと発表がされていたということを確認いたしました。

翌17日には道と市で、情報共有と、今後どのような課題が出てくるかというところを共有する意味で、連絡会議を早速開催したところです。そしてその翌日には組織委員会に正式に文書で照会しようということで、まずこれが正式な決定なのかどうか。それから今後、どの時点で内示等があるのか。それからこれまでの正確な情報をくださいと文書で要望したところですが、10月30日から11月1日にかけてのI O C調整委員会で正式に決定するまでは情報提供できない、今の時点では情報はないというお答えでした。

10月30日から1日まで3日間かけまして、メディア等でもかなり報道がされましたけれども、I O Cの調整委員会が東京都内でございまして、調整委員会の構成メンバーはI O C、組織委員会、東京都で、特に暑さ対策、そういった検討をする場でした。ここで今年行われたプレ大会の検証結果も議論されましたが、マラソン・競歩の札幌開催についても、特に主要な課題として議論されまして、そこにオブザーバーとして国も参加したなかで、最終日にこの4者のトップによる4者協議がございましてそのなかで、正式に札幌開催が決定されたということでございます。

すぐに会長の森喜朗元総理から、知事、札幌市長に決定と協力依頼の電話連絡がありまして、当日その後に予定されていた道と札幌市の行政懇談会でも、このマラソン開催について協議をいたしまして、連携を強化していかないと、時間もないなかできないということが確認され、そして特に道民向けにコメントを発出したところでもございます。

その翌週7日には、組織委員会の森会長自ら来道され、あらためて知事と札幌市長に協力依頼をされまして、また、その翌日には武藤事務総長も来道されまして、協力依頼とマラソンコースの候補となっていた3か所、札幌ドーム、大通公園、それから円山陸上競技場を視察されました。そしてこの時に組織委員会から実務者がかなり来まして、初めて11月8日、第1回実務者会議というものが、組織委員会、道、札幌市で行われました。

あらためて説明のあった内容といたしましては、競技の運営については組織委員会が主体となります。競技の運営といいますと、選手・関係者の宿泊の手配であるとか、医療であるとか輸送、そういった競技が実際に行われるための実務・人員の主体は組織委員会ということです。地元の道、札幌市、それから民間企業・団体は、開催の支援と気運醸成等を行っていくという役割となっております。

発着地点については、11月8日の段階では、先ほど申しました複数案がございまして、それを今後議論していくといったなかで、昨日、11月18日ですけれども、第2回目の実

務者会議が開催され、この時は北海道警察も参加しまして、交通規制それから特に各ルートにどんな課題があるかというところが議論されました。

この日了承されたことといたしましては、発着地点、スタートとゴール、これがI O Cの了承事項であると。コース全体については承認事項、いわゆる協議しながら決めていくことになるのですが、スタート地点とゴール地点というのはI O Cの了承事項ということですので、そこを早めに決定しなければいけないということで、大通を発着の場所とする。これを12月上旬のI O C理事会にかけていくというのが今後の動きです。

大通公園が選ばれた理由としましては、まずマラソンと競歩は同じ会場で行う必要がある。それは人員であるとか、設備、そういったものを共有してやらないと、東京以外での開催はなかなか難しいということと、競歩の会場としては、ループ状の平らな場所が必要だということで、円山と札幌ドームの周辺では、それがなかなか確保できないということがあります。そしていろいろなコンパウンド、備品やエネルギー関係、メディアルームといった施設設備のことですが、いろいろなコンパウンドが周辺に設置されますので、平らな場所が必要だということで大通会場と。

あとは、北海道マラソンのルートをベースとできれば、住民の方への説明であるとか、交通規制のかけ方とか、市民生活への影響といった北海道マラソンの知見が生かせるということで選ばれたところです。

コース全体と日程については、今後の課題として議論の中で決められていくこととなっております。

それから現地の運営体制、先ほど申しましたように組織委員会が実際の主体となりますので、札幌に組織委員会の支部が設置されます。そこに道や札幌市、それから民間競技団体の方に、人材の協力をお願いされておりまして、今後コースが決まったり日程が決まったりするなかで、その体制がはっきりしてくるかなというふうにとらえております。

東京都では、東京での開催ということでも2年、3年前からもう準備が始められていた状況で、我々は9か月を切ったなかで、これから開催まで結びつけなければいけない、特にオリンピックのマラソンというのは、レギュレーション、基準が非常に高いということで、普通のマラソンができていうだけでは、なかなか難しいところがございます。そういったなかで安全確実にやるというところを、組織委員会と札幌市と我々と、あとは北海道マラソンの事務局であったり、競技団体の方々であったりと、そこでチームになってやっていくという開催支援が必要です。

コースにつきましては、やはり市民生活、それから経済活動への影響といったものもしっかり意見も伺いながら協議していくこととなります。それから我々の役割としましては、まだはっきりしていないのですが、ボランティアの確保というのがかなり必要になってくる。すでに札幌はサッカー競技の都市ボランティアを660人、もう応募いただいておりますけれども、その方々にも御協力をお願いしますし、さらに必要なかどうかをこれからつめていく必要があります。

それから、先ほど深川市の早川委員からも、合宿のお話がありましたけれども、マラソンで言いますと、大体80名ぐらい、男女で160名。リオオリンピックでは70か国ぐらいが参加しているので、そういった方々が環境順応するにあたって、事前合宿で北海道内に来る。そういったところをきちんと受け入れられるかどうかは市町村の皆様の御協力が必要になります。そういったところでも、委員の皆様いろいろな情報をこれからお伺いすることになると思いますので、よろしく願いいたします。

北海道といたしましては、たくさんの来道者が来られるということで、おもてなしの部分、それから北海道全体の気運を盛り上げて、競技を見てもらって、沿道で見られますので、オリンピックに実際に参加するという貴重な機会が北海道の方々にあるということをしかりとチャンスととらえてスポーツを盛り上げていきたいと思います。また、波及効果として、こういったオリンピックというスポーツ大会を活かして北海道の魅力を発信することで、後のちこれはレガシーとなって、北海道に合宿に来られる方々、観光で来られる方々、そういったものを増やしていきたい、レガシーとして残していきたいと考えておりますので、引き続き、いろいろな情報をいただければと思います。

#### ○生島会長

はい、ありがとうございました。

今御説明いただきました、最初の自己紹介の時にも、オリンピックについていろいろなお話がありましたけれども、他に皆さん、こういうことを考えているとか、聞きたいことなどがあれば、いかがでしょうか。

ちょっと私の方から、ボランティアの関係で、私もマラソンをやっておりまして、黒田さんと北海道ランナーズサポートというNPOもやっております。実は、ランニングをする関係者からボランティアをしたいという声が、もう山ほどきています。沿道の監視ですね。

オリンピックでは、沿道は全部鉄柵でズラッと囲まなければならないということで、北海道マラソンとは全く違うイメージのものになるのだそうです。それに鉄柵をただ並べておけばいいという話じゃなくて、そこに監視をする方がずっといるという話で、それがボランティアのどういう種別になるのかはよくわからないのですが、ランニングをやっている皆さんにはやりたい方がたくさんいて、その意味ではボランティアの頭数が足りないということにはならないと思います。山崎文子さん、小林さんも、マラソンボランティアを結構やっていらっしゃいますよね。北海道マラソンもものすごい数お願いをしているということがありまして、その意味ではあんまり心配はしていない。逆に、ボランティアをしたいたくさんの方々のなかに、外れてしまう方がたくさん出てしまうということが、私が実は心配していることでございます。

あと合宿関係ですけれど、早川さんから先ほどお話がありましたが、マラソンはなにか誘致はしないのですか。

○早川委員

道内の場合は夏合宿で、大体決まったチームがくるわけです。それが大体7月、8月上旬、決まったチームが決まった宿に来るので、正直言うとその時期というのは、空いてないのです。先ほど申し上げましたが、オリンピックがあるからといってホクレンディスタンスの日程がずれることは多分ないはずなので、そうするとちょうどぶつかる。小さな町ですから、カバーできる宿泊施設があるかと言われると、なかなかない。それで、実は困っています。山崎佳さん、標津はラグビーの合宿が結構多かったですか。

○山崎（佳）委員

ラグビーはとりの中標津町の方で受け入れていたりですとか、マラソンも隣の別海町で受け入れたらということがございました。ただオリンピックのことを考えますと、道内でもかなり気候が違いますので、こちらは冷涼なので、札幌よりも涼しい地域となると、その合宿地としては、もしかすると合わないのかなと考えたりもします。

○生島会長

やっぱり暑さ対策的な発想でいくと、もっと暑いほうがいいのではないかな。他いかがでしょうか。はい藤井さんお願いします。

○藤井委員

北海道中体連でございますが、周辺の状況、情報ということでお伝えすると、マラソン・競歩が札幌に来るとするのは札幌、北海道のスポーツ人として光栄なことなのですが、ちょうど中体連の全道大会の日程がかぶるのですね、ドンピシャと。札幌が全道大会3種目、石狩管内も含めると15競技中7競技がこの周辺で行われることになるのです。では宿泊が果たして確保できるのだろうかということで、中体連事務局各担当は旅行者と綿密に連絡をとりながら、生徒・保護者分の宿泊を何とか確保できるようにということで動いてもらっているところですが、さて実際どうなのかということを非常に懸念している状況でございます。

○生島会長

そうですね。学校の関係はやはり夏休みに集中するというのもあって、そうですね。他いかがでしょうか。はい黒田さん。

○黒田委員

オリンピックについて、2つ、僕言いたいことがあって、1つはやっぱり、道民に対して、どれだけ意義のあるものか。そういったことを、札幌市が発信するのか、道が発信す



るのかちょっとわからないのですが、やはりこれ大変なことなんですよ、本当に。マラソンコースは、ここで行われるというのが大変なことなんですよ。

私、メルボルンマラソンを支援しているんですよ。もう70年前のコースを、今でも市民がこのコースはオリンピックコースだと言って走っているわけです。まさにね、ここはレジェンドになるんですよ。これから100年間、ずっとこのコースをランナーは走るんです。そうした事をもっと発信して欲しいと思うんですね。

それともう1つ、道民に対するものと、あとは、国内と海外へ向けての話。これも絶対に必要だと思います。これによって、札幌の2030年のオリンピックも僕は確実になるのではないかと考えています。この出来次第だと思います。だから、この2つ、道民と国内国外に向けての、このPRをしていくというのを、皆さんで、どこの部署で考えるかわかりませんが、もう少し理論的に考えて欲しいなと思っています。

それから先ほど生島会長からお話がありましたけれど、警備の面ですね。本当にこの警備を何とか軽減できないかと、僕はいつも思っているんですが、IOCとの調整によるのでしょうけれど、あまり鉄柵を置きたくない。どうしても置くんだったらしょうがないけれど、私は東京マラソンなんかを見ていて思うのですが、黄色いテープをあっちこちに張り巡らして、本当に見苦しいですよ。あんなものなくても大丈夫ですよ。それを何とか発信できる、言える立場の人が言うべきである。この会がそうなのかもしれませんけれど、そういうことができればと思います。

#### ○生島会長

はい、ありがとうございます。他いかがでしょうか。

私は、かなり現実的な話ですが、一番典型的に今言われているのは、大通のピアガーデンをどうするといった話ですね。一番最悪のパターンは、オリンピックは本当に余計だなという、オリンピックを否定するようなそういう気運になるのがもう最悪だと思っています。黒田さんもおっしゃったように2030年を目指しているという中で、いやオリンピックというのはろくなものじゃない、みたいなことになると一番大変なので、そこをどうやっていくのかというのをしっかりやらないと駄目なんだと。

その意味では、今日ここにお集まりの皆さんはスポーツ関係者ということで、スポーツの持っている意義、力というものをよく御理解されていると思いますけれども、その辺をしっかりとやらないと、オリンピックをやったことでオリンピックの否定に繋がるといふことにならないように、本当に慎重にやらないといけないし、先ほど本田さんから、おもてなしの話とか、北海道を売り込むという話がありましたけれども、そういう前向きな、そういう方向性になるように、皆が力を合わせていかなければならないという気でおります。

すいません、しゃべり過ぎました。他皆さんいかがでしょうか。

よろしいですか。それでは期待も大きいけれど、不安も大きいということでございま

す。我々委員よりも、本当に事務局の皆さん、北海道と札幌市の担当の皆さんが一番大変だと思えますけれど、ぜひ頑張ってやっていただきたいと思います。よろしく願います。

それでは私の方からは以上ということで、事務局にお返しします。

○事務局（石丸課長）

はい。生島会長ありがとうございました。

本日は各委員の皆様からいろいろな御意見をありがとうございました。事務局で持ち帰って検討したい部分がありますので、引き続きよろしく願いしたいと思います。

次回の開催は来年の6月頃を予定しております。その時の議題としては、文部科学大臣表彰の推薦候補者の選定であるとか、北海道スポーツ賞の候補者の選定等の御審議をしていただくこととなっておりますので、来年の6月、また皆様方にはよろしく願いいたします。

#### 4. 閉 会

○事務局（石丸課長）

それでは以上をもちまして、令和元年度第2回北海道スポーツ推進審議会を終了したいと思います。本日はまことにありがとうございました。